2002 年 2 月 4 日
工業経済学ゼミ(学部)打ち合わせ（第 3 演習室）

川端　望

■ゼミ名簿について(Web では非公開)
（学年は来年度のもの）

常時参加メンバー

随時参加メンバー

住所・電話番号は別紙にて作成

■ゼミの年次計画について
2003 年
2 月：打ち合わせ。懇親会。
4-6 月前半：現代日本経済論の基礎を学ぶ。
6 月後半-7 月：産業論の基礎を学び、フィールド調査

■ゼミの進め方について
１）主な事項はシラバスを参照。
２）テキストについて
森武麿ほか『新版　現代日本経済史』は生協に入荷要請してあるので、必ず購入すること。
『有斐閣経済辞典第４版』か『岩波小辞典　経済学』を必ず購入すること。
現代日本史の知識に自信のない者は、『現代日本経済史年表』などの年表類を備えてほいた方がよい。
購入するのは古本でも良い。全ページコピーは、テキストにかぎらず、市販されているものについては不可。
３）ゼミにおける基本的な役割ローテーション
レポーター
コメンター
司会
報道解説係
記録係

４）進め方
・新聞記事討論(30 分程度)

情報収集の初歩的スキルをみがき、現実感覚を養うために行なう。前回のゼミの翌日から当日までの新聞記事から 3 つ以上について、担当者がコピーを配布して解説し、全員で討論する。
対象紙は朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、サンケイ新聞、河北新報を基本とする。ネット上の記事でもよい。
ただし、専門性や一定の立場からの報道を重視したい場合には、専門紙（日経産業新聞、日経金融新聞、日経流通新聞など）、政党紙（自由新報、赤旗、公明新聞、社会新報など）、タブロイド紙（日刊ゲンダイなど）なども可。
分野は経済に限らなくてもよいが、報道記事を中心として、必ず自分で解説を加えること(社説の読み上げなどはしないということ)。

・本ゼミ(2 時間半程度)

２週間前から１週間前

分担にしたがって、レポーターはゼミの準備をする。テキストをよく読み、用語や討論すべき点について調べる。よって、2週間前には準備をはじめ、ゼミの 1 週間前までには他のゼミ生や教官に準備に必要な質問をしておかないと、文献を指示されたりしてもまにあわない。他のゼミ生も必ずテキストを読んでくる。教員は、読んだことを前提に質問する。

↓

１週間前から前日

レポーターはレジュメを作成。著者の見解のポイントの紹介、提出する論点、それに対する自分の意見、難解な用語解説などを書いてくる。解説図などもあるとベターなので、各自工夫すること。

↓

当日

レポーターがレジュメを配布する。レジュメに沿って報告。その後、コメンターと他の参加者からの論点を提出。

↓

司会が整理し、討論順序を決めて進行。

※注意

・『新版現代日本経済史』を理解するには、最低限、以下の２つの努力が必要と予想される。これらは就職・進学にも役立つ。
1)経済用語、時事用語のチェック。例えば「はじめに」の２頁だけでも、「ルック・

イースト」、「トヨティズム」、「アジア通貨・経済・金融危機」などがある。経済学部生の常識としてよく調べておくこと。
2)日頃から新聞やニュースを読み、経済情勢に敏感になること。

・レジュメや新聞記事コピーなどは、すべて A4 か A3 版とする。また、極力ワープロ打ちすること。
・レポーターはすべての質問に何らかの回答をする責任を持つ。したがって、単純な質問(用語の意味など)に答えられないことは許されないので、十分な予習が必要。
・コメンターは、自分で調べていないことも質問してよい。意見を求められることはある。
・記録係は、黒板またはホワイトボードに重要な説明や図解がなされたときに、これを記録しておく。次回にコピーを配布する。その他、記録作業をおこなうことがある。

分担

月日	区分	司会	レポーター	コメンター	記録係	新聞記事解説
4/11	レポート報告会					
4/18	「はじめに」、１章 1-3、4-5					
4/25	２章 1-2、3-5					
5/2	３章 1-3、4-6					
5/9	４章 1-2、3-5					
5/16	５章 1-3、4-5					
5/23	６章 1-3、4-5					

■研究室の利用について

本は、原則として図書館のものを利用してもらうが、川端研究室の本を利用することもできる。

ゼミで共同利用したい書籍・資料については、校費での購入を検討するので、希望を提出すること。おおむね１人あたり２万円とする。

研究室に来るときは、原則として予約をとること。

電子メールによる質問は随時受け付ける。電話は緊急の場合に限ること。

■付記

・事前に連絡があった欠席は、合理的な理由である限り成績に影響しない。合理性の判断基準は、おおむね以下の通り。記していないケースについては相談に応じる。無断欠席は、就職活動など場合を含めて絶対にしないこと。

認める：病気、事故、親しいものの冠婚葬祭、学友会サークルの対外試合、在留手続き、研究のためのフィールドワーク、ゼミ協、学友会、寮自治会など認可団体の役員の場合は大学側との会見（内部的な会議は不可）。

認めない：アルバイト、上記以外のサークル活動。

・施設見学について、および演習論文の作成支援については、別途提案する。

以上